



麦づくり情報(No.2)

1. 麦作況情報田の生育概況(2月8日調査)

場所	品種名		播種日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	主稈葉数 (L)	概況
大和	シロガネコムギ 6条播き	本年値	11/22	13.2	648	7.1	草丈は平年よりやや高い。 茎数は平年より多い。 葉令からみた生育は平年に比べ早い。
		平年値	11/27	12.8	575	5.3	
		平年比	-5日	103	113	1.8	
牛津	サチホゴールドン 4条播き	本年値	12/9	11.7	375	4.2	草丈は平年より高い。 茎数は平年より少ない。 葉令からみた生育は平年に比べやや遅い。
		平年値	12/7	10.9	471	4.6	
		平年比	+2日	107	80	-0.4	

参考 農試作況データ(2月10日調査)

品種	播種期 (月/日)	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢 (L)	葉色 (SPAD)	概況 (平年・平均と比較して)
シロガネコムギ	11/21	本年	23.4	581	5.5	49.2	[気象] 1月20日~2月8日まで ◆平均気温…平年より0.5℃低い ◆日照時間…少ない(平年比79%) ◆降水量…多い(平年比113%) [生育] ◆草丈 11月21日播種「シロガネコムギ」、 12月1日播種大麦で高い。12月9日播種「サチホゴールドン」でやや低く、12月9日播種「シロガネコムギ」、 12月9日播種「はるか二条」で低い。 ◆茎数 全品種・全作期とも少ない。 ◆葉齢 全品種・全作期とも遅れている。 ◆生育ステージ(次頁参照) ◆幼穂長及び節間長(次頁参照)
		平年	21.3	700	6.1	43.8	
		平年差(比)	110	83	-0.6	+5.4	
	12/9	本年	12.3	252	3.6	44.3	
サチホゴールドン	12/1	本年	14.0	651	4.6	43.8	
		2ヶ年平均	13.2	770	5.2	43.6	
		平年比(差)	106	85	-0.6	+0.2	
	12/9	本年	12.2	406	3.8	41.4	
はるか二条	12/1	本年	13.3	726	4.4	50.1	
		2ヶ年平均	12.2	770	4.8	49.5	
		平年比(差)	109	94	-0.4	+0.6	
	12/9	本年	10.6	484	3.7	50.2	
はるか二条	12/9	5ヶ年平均	12.7	516	4.0	46.1	
		平年比(差)	83	94	-0.3	+4.1	

気象概況

1月5半旬~2月1半旬の平均気温は平年比-1.0℃と低く推移した。降水量は1月5半旬に18.5mmの降雨があったが、その後はほとんど降雨がなく乾燥傾向で推移した。日照時間は平年の126%と多照で推移した。

生育概況

- ・11月中旬に播種された小麦は、現在7~8葉期となっている。低温・乾燥により生育、分けつの発生は緩やかになったものの生育は良好である。情報田（11月中旬播き）では現在節間長5~10mm、幼穂1~2mmとなっている。
- ・12月上旬播種の大麦は、現在4~5葉期となっている。播種後の少雨・乾燥で出芽が遅れ、その後も低温・乾燥により生育、分けつの発生は緩やかとなっており、生育は平年よりやや遅れている。



2. 今後の管理

○穂肥

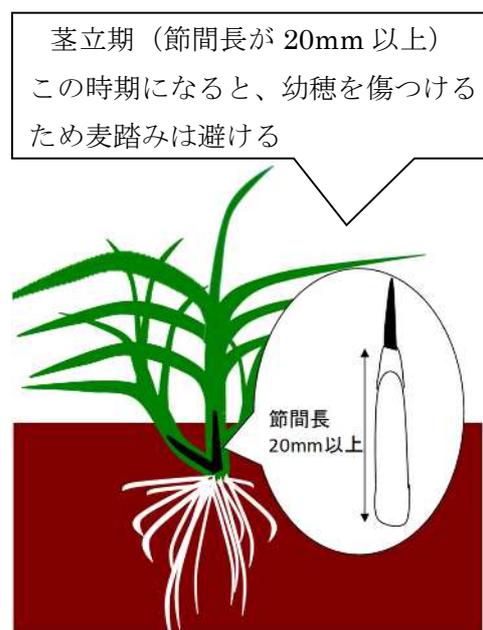
11月中旬播種の小麦は、まもなく穂肥施用時期（2月下旬頃）となるため遅れないように施用する。

茎立期（右図の時期）を迎えた圃場では、麦踏みを行いながらの施肥は避け、動力散粒機やブロードキャスター等で散布する。

◎ 肥効を高めるため、穂肥後に土入れを行うとより効果的である。

○踏圧(麦踏み)

- ・早期茎立ち抑制、出穂揃いをよくする効果があるため、条件が良いときに3~4回程度実施する。圃場の土壤水分が高い場合、土が締まり湿害を助長するため、必ず乾いた状態で行う。
- ・茎立期を迎えた圃場では、茎折れの発生による穂数の減少や株元のなびきにより倒伏に対する抵抗力が弱まるため実施しない。
- ・麦踏みの最終時期は節間伸長開始期~茎立期まで（草丈25cm程度）
※節間伸長開始期…節間長が5mm以上に達した時期
茎立期…節間長が20mmに達した時期。

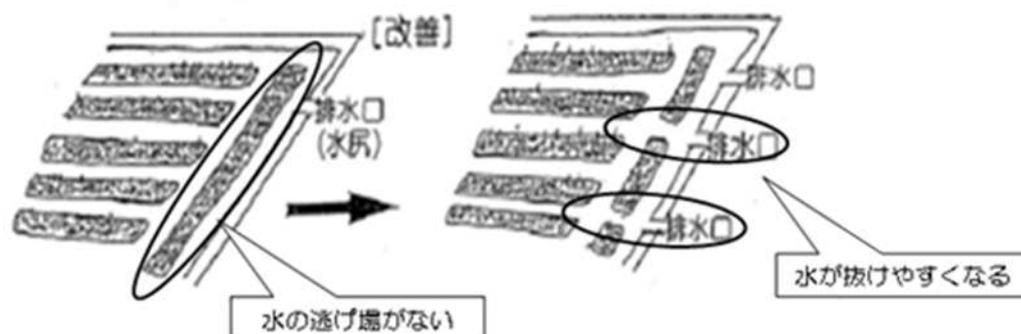


○土入れ

- ・5葉期以降に雑草防除と排水対策もかねて、圃場の条件をみながら計画的に実施する。出芽が遅れた圃場では、生育を確認してから開始する。
- ・土の量は、生育初期は少なめにし、生育が進むにつれて量を増していく。
- ・肥効を高めるため、追肥後に行うと効果的である。

○排水対策

- ・生育期間中の湿害が根の張りに大きく影響する。また、今後は降雨量が増えることが予測されるため、速やかに排水できるよう、降雨が多くなる前に、土入れ後は、溝を排水口まで通すなど整備し、圃場内に滞水しないよう管理する。



○雑草対策

一部の圃場で1年生広葉雑草を中心に雑草（ヤエムグラ、キンポウゲ類、アメリカフウロ、ミチヤナギなど）の発生が目立ってきている。現在使用できる生育期除草剤は、草種や使用時期によって効果に差があるため、優先している雑草の種類に応じ、処理時期を逸しないように早めに対処する。

【注意事項】

麦踏み：麦踏み前後の除草剤散布は、薬害を助長するため避ける。

土入れ：除草剤散布直後に行うと、有効成分の根部吸収が妨げられるので控える。

農薬名	効果のある雑草	使用量 (/10a)	希釈水量 (/10a)	使用時期	総使用回数	留意事項
ハーモニー75DF水和剤	1年生広葉雑草 スズメタネウリ カシノコ	5～10g	100L	は種後～節間伸長前 (スズメタネウリ5葉期まで) (カシノコ1～3葉期まで) ※小麦のみ は種後～穂ばらみ期まで 但し収穫45日前まで	1回以内	・カシノコには10g/10aとし、土壌処理剤との体系処理で使用 ・周辺作物(特にタマネギ)への飛散には十分留意する ・ヤエムグラ、カシノコへの効果は劣る
バサグラン液剤	1年生雑草 ※イネ科雑草には効果がない	100～200ml	70～100L	生育期(雑草3～6葉期) 小麦は収穫45日前、 大麦は収穫90日前まで	1回以内	・ミチヤナギ、カシノコ、ミノムシ等への効果は劣る
エコパートフロアブル※1	1年生広葉雑草 ※イネ科雑草には効果がない	50～100ml	100L	節間伸長開始期まで (広葉2～4葉期) (ヤエムグラ2～6節期) ただし収穫45日前まで	2回以内	・薬害が出やすい ・ヤエムグラ優先圃場での使用がおすすめ
MCPソーダ塩	1年生雑草及び多年生広葉雑草 ※イネ科雑草には効果がない	200～300g	70～100L	幼穂形成期まで 収穫45日前まで	1回以内	・ヤエムグラへの効果はやや劣る

※1 以下の場合、薬害が生じることがあるので留意する。

- ・重複散布は避け、麦が生育不良の場合は使用を避ける。
- ・効果、薬害に問題がないことが確認されていない薬剤との同時施用や7日以内の近接散布は避ける



ヤエムグラ



アメリカフウロ



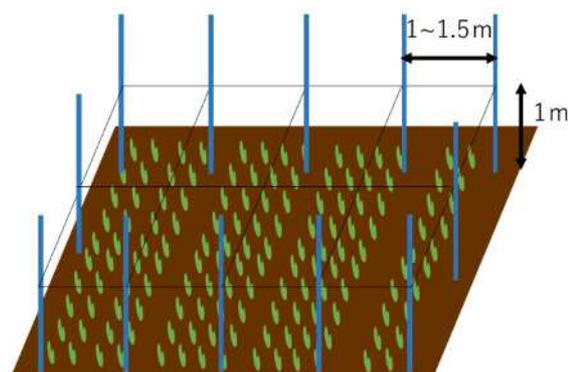
キンポウゲ

鳥獣害対策

・カラス

黒のワイヤ線としなりやすい支柱を用いて、カラスの翼を広げた時の長さ（1～1.5m）の間隔で約1mの高さに設置することにより、飛来するカラスは嫌がる。

ただし、歩いてくるカラス、ハトやカモには効果がない。

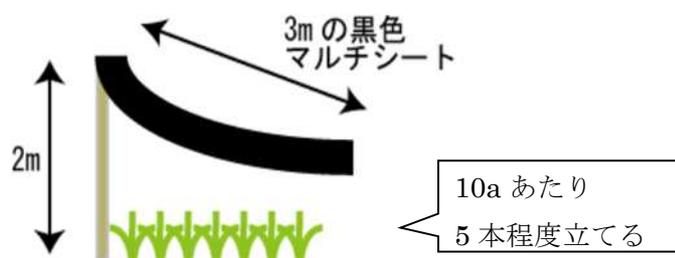


・カモ

本年もカモによる食害が各地で多く見られる。特にクリーク沿いにある圃場など食害に遭いやすい圃場では、のぼりを立てる等の対策を実施する。

【のぼりの設置について】

支柱に黒色マルチを吊したものを設置する。カモは水路から侵入することが多いため、圃場の水路寄りの部分を中心に設置すると効果的である。



「野生鳥獣被害防止マニュアルー鳥類編ー」農水省 等より作成



カモによる食害
バリカンで剪定したように見える

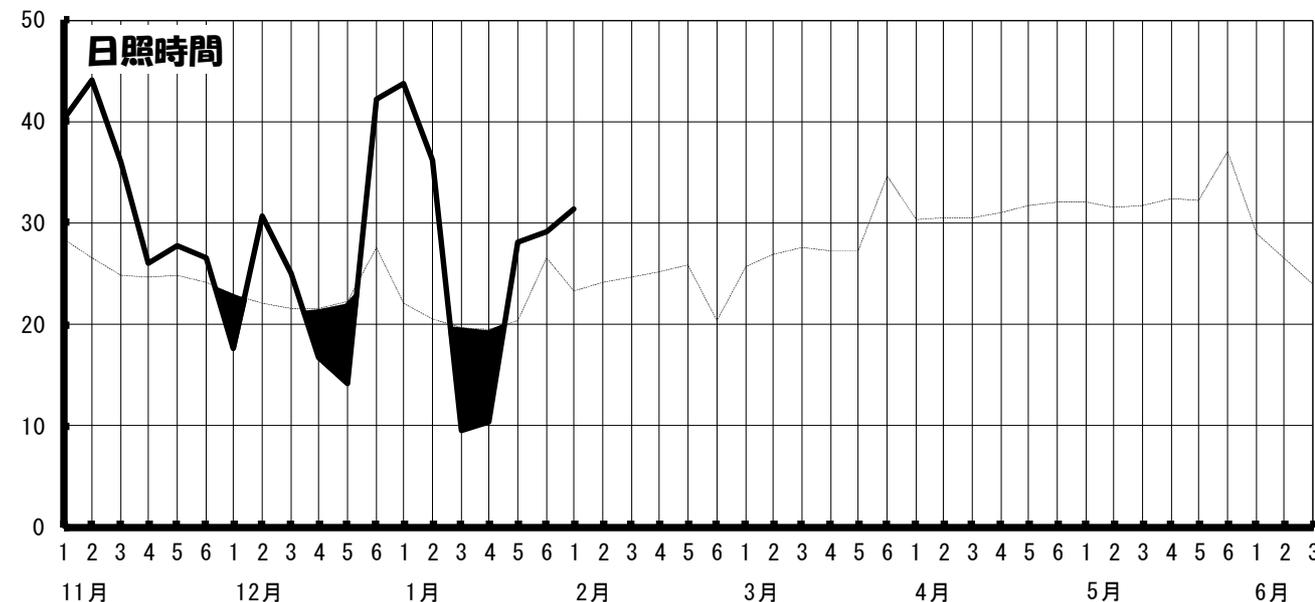
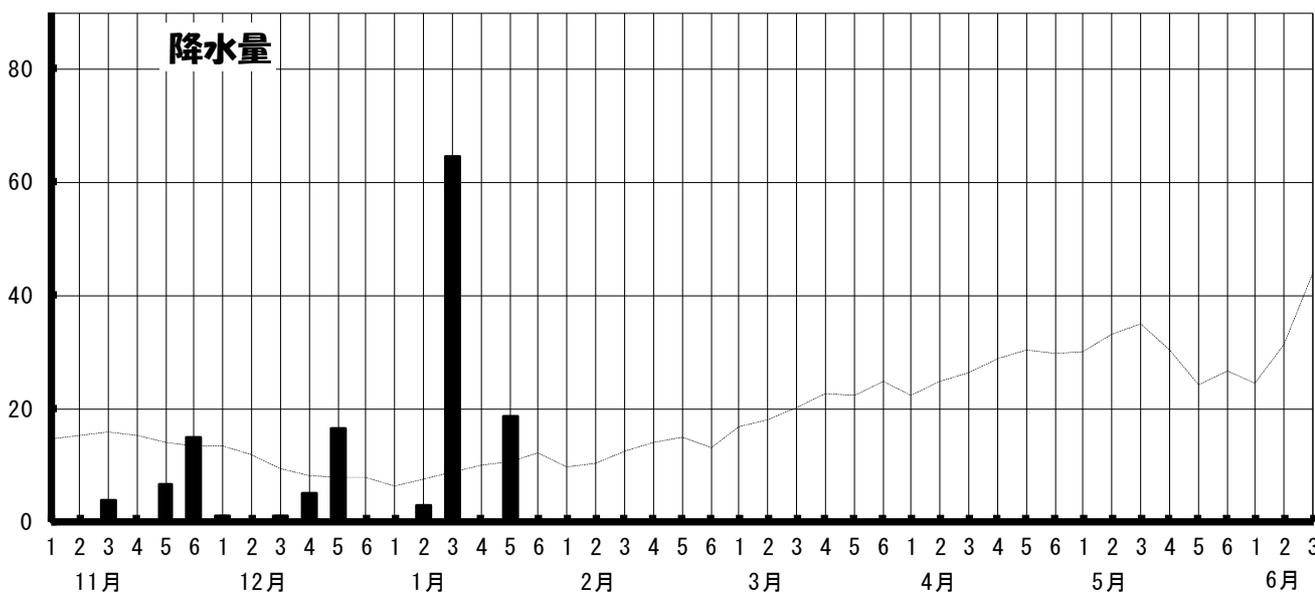
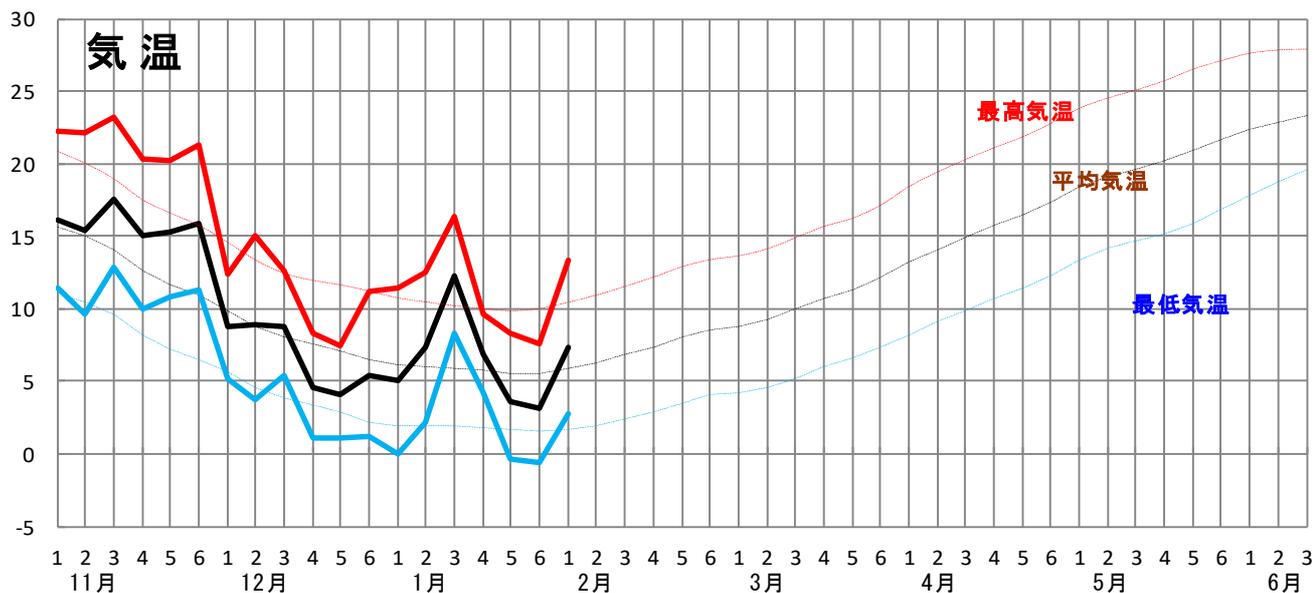


カルガモによる食害
日中に、集団で食害。
遠目には被害がわかりにくい、近づくと葉先の食害がみられる

令和5年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値（佐賀）

佐城農業振興センター



グラフ中の点線は平年値